

はじめに

患者さんの診療を行ううえで、「酸素療法」は欠かせない治療法の1つです。特に、急性期領域においては、患者さんの状態が悪化すれば必ずと言っていいほど、酸素投与の指示を出すでしょう。ただ、「とりあえず、鼻カニューラで1L/分で投与してください」となんとなく指示を出している研修医の先生もいるのではないのでしょうか。それも仕方ありません。意外と医師は酸素療法について教育を受ける機会がなく、経験則が中心になってしまっています。

呼吸療法に関する医師向けの本は、人工呼吸療法をメインに取り上げているものが多く、酸素療法についての本は少ないですし、取り上げられていたとしてもごく少ないページ数に限られています。きっと、呼吸療法のなかでは人工呼吸のニーズが高いからでしょう。そう言う筆者も研修医のころには、人工呼吸に関する本を買って読んでいました。しかし、人工呼吸は、advancedな治療法であり、それを受ける患者さんはごく一部です。大多数の患者さんは「酸素療法」が中心になることは間違いありませんし、人工呼吸を必要とする患者さんであっても最初は酸素療法から始まるのです。

そこで、学ぶことの少ない酸素療法に主軸を置き、そこを足がかりに呼吸療法を全般的に学ぶことを目的として、本書を企画しました。酸素療法から人工呼吸まで、そして急性期医療から在宅医療まで、呼吸療法のすべてを網羅することを目指しましたが、あくまでも酸素療法が中心です。もし人工呼吸についてしっかり学びたいのであれば、本書を読んだうえで専門書を一読していただくと理解が進むものと思います。

本書は、各章で研修医と指導医のやり取りから始まります。普段の臨床のなかで研修医が抱きがちな疑問に対してしっかり根拠のある回答をできるように作られています。これから学ぶ研修医の先生にとっても指導に当たる上級医の先生にとっても、もちろんその他のメディカルスタッフにとっても酸素療法を深く学べる一冊になっています。読みやすさにこだわって作っていますので、コーヒー片手に読んでいただけると幸いです。

2024年3月

大村和也